

解消派の行方に関しては、同派の立役者であつた小岩井細迫氏等の如きは、×××××側よりも排撃されてゐる状態にある。河上氏は恐らく齋齋に復讐するであらう。この派の勢力も強力なものでなく、發展の見込みもない。

#### 二、社会民主党の情勢に就いて

社会民主党は全體として甚だ不振で、活潑な闘争は行はれてゐない。支部の分裂各所に起り、黨勢擴張も停頓状態にある。支持組合の日本労働總同盟は、昨年八月分裂以後大阪方面に於ける勢力を失つたが、關東方面に於ても最も強力な地盤であつた川崎地方に於て、その勢力は崩れつゝあるしかも、總同盟は、最近「組合運動へ歸れ」を強調して、社民黨に對して消極的な態度に傾きつゝある。

十一月二日——四日の總同盟大會に於て、鈴木文治氏は會長を辭任し、また黨役員も辭任するに至つた。これは黨にとりては一大打撃である。

同黨は、十一月十一日の執行委員會に於て、合同問題に關する態度を決定したが、社会民主主義精神に基く合同を強調し、具體案として、合同への第一歩として我が黨に對して左の如き提案をなすと。

一、兩黨間に共同委員會を設立する。一、共同委員會は

合同の要望が起つてゐる。

#### 四、機關紙部報告

部長 河野 密  
編輯主任 角田 藤三郎  
營業主任 田原 春次  
常任 藤野 光弘

はしがき

我が機關紙部は、七月二十一日の黨第一回中央執行委員會の決定に基き、舊日本大衆黨の機關紙「日本大衆新聞」を「全國大衆新聞」と改題し、黨の集中的組織、宣傳、煽動の武器として活動するに至つた。従つて創刊號は改題と同時に號數をも繼承し、全國大衆黨の機關紙としての「全國大衆新聞」八月十一日發行の第二十一號を以て始まる。以下簡單に機關紙部の報告をする。

#### 一、

戦線統一への拍車として光輝ある合同の完成は、我が無産運動戦線に於ける大衆政黨としての全國大衆黨の双層に階級的重要性を倍加せしめた。殊に一九三〇年度に於ける日本の資本家階級は、世界經濟恐慌の眞只中に叩き込まれ

共同闘争及び選舉協定を行ふ。一、共同委員會は、本部府縣聯、支部、分會等におく、一、共同委員會に出席する我黨員は各々黨機關の監督、統制をうく。一、共同委員會の設置時期及び設置方法は全國的劃一主義を排し、各地方の黨情勢に適合する様慎重に之を定め、且つ黨上級機關の承認をうくること。

以上の案は、大會に附議せられるであらうが、これは黨内にすでに起りつゝある、合同論に對する本部側の牽制策であるにすぎない。

#### 二、各地方合同運動の進展に就いて

新潟縣に於いては、九月十日の全農新潟縣聯大會の決議に基き、我が黨、労働黨、社民黨の各縣聯間に、三黨合同促進同盟が組織され、各黨内に於て全無産政黨合同の實現に努力すると共に、この機關を通じて共同闘争を展開してゐる。

岡山縣に於ても三黨間に合同促進運動並びに共同闘争を行ふ恒常的機關が組織されてゐる。

京都における社民黨支部は、本部とは異つた意味に於て我黨京都支部聯との間に合同促進協議會を組織してゐる。尙社民黨に於ては、北海道、山梨、富山、等々に於ても

この苦悶からの脱出への嚆がきは、勢ひ労働者、農民、全無産階級の直接的壓迫となつて表はれた。故にこそ、本年度の特徴は労働者の決定的ストライキ、農民の決死的闘争の展開となつて表はれた。斯かる情勢下に置かれたる我が黨は、勢ひ支配階級の彈壓の中心的目标とならざるを得なかつたので、黨員同志數百名は、新潟に、秋に、東京にと各地の刑務所に、今は尊き犠牲の身を横えねばならなかつた。斯る闘争激化の下にトップを切る機關紙部は

#### 二、

常に黨の集中的組織者、宣傳者、煽動者として、我が無産階級戦線に於ける唯一の全國的政治新聞としての使命を持ち全國大衆新聞をして、この重要使命を遂行するために新聞經營に多くの經驗を持つ田原春次氏を營業主任として財政の獨立を企圖し、黨の日常闘争の尖端に起つて使命遂行のために敢然と闘争を開始した。俄然、支配階級の彈壓は我が機關紙に對して向けられた。爲めに創刊號(二十一號)は發禁となつた。この彈壓に對して機關紙部は直ちに隨營を整備してそれに備え、次號を九月一日二十二號を發行した。だが狂弄せる支配階級は、二十三號號外(十月十日發行)を發禁すると共に、號外費を檢束するに至り、續